

環境科学同窓会通信 第24号

Environmental Science Alumni Association Newsletter Vol. 24

目次/Content

1. 「大学院生活を振り返って今思うこと」
仙北 晃久（2018年度修士課程修了 生化学工業株式会社）
2. 「気付いたら10年前と同じことを考えている自分」
斉藤 潤（2015年度修士課程修了 現在モンタナ大学博士課程）

大学院生活を振り返って今思うこと

仙北 晃久（2018年度 環境物質科学専攻修士課程修了 生化学工業株式会社）

私は2016年に環境物質科学専攻の松田研（現梅澤研）に入学した。もう7年前のことである。そんな2016年といえば北海道日本ハムファイターズが4年ぶりのリーグ制覇、10年ぶりの日本一を決めた年。松田研のメンバーに加え、近隣研究室のメンバーとも、CS（クライマックスシリーズ）、日本シリーズを札幌ドームで観戦した記憶は今でも鮮明である。そんな仲間とコロナ前以来ぶりに会う機会があり、当時の思い出や近況を語り合い、あっという間に時間が過ぎていった。大学院生活が楽しく有意義なものであったのだと改めて感じさせてくれた。

私は2016年2017年の二年間で有機合成の研究に取り組み、2018年に製薬会社の基礎合成の研究職として入社した。社内での配置転換により約二年の業務であったが、大学院時代に学んだ・研究したことを活かすことができ、基礎研究の推進に寄与できたと思う。その後、開発薬事そして現在はプロジェクトマネージャーと開発分野における責任のある仕事を担わせていただいている。うまくいかないことの方が多いが、松田先生、梅澤先生そして当時一緒であった研究室のメンバーから学んだ様々なことがこの場面で発揮されているように思う。実験して成果を出す事が一番大事であるが、それに係る準備や後片付けといった小さくて成果とならないことも非常に重要なことである。この認識を忘れずにこれからも仕事に精進していきたい。

二年という短い大学院生活であったが、研究室での日々が大半を占めていたからこそ先生方や仲間との思い出が印象深い。そんな楽しい思い出を作ってくれた皆さんに感謝し、これからの人生を歩んでいきたい。

気付いたら 10 年前と同じことを考えている自分

齊藤 潤 (2015 年 3 月地球圏科学専攻修士課程修了 現在モンタナ大学博士課程)

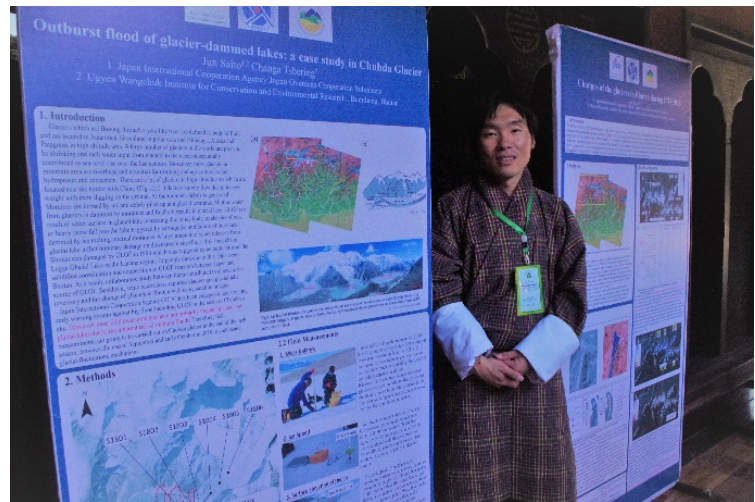
私は思いつきでこの 10 年間という時を過ごしてきたような気がします。とても模範的とは言い難いですが、一切後悔しておりません。それは自分がやりたいことを私なりに選択してきたからだと思えます。私は 2013 年から 2015 年にかけて、環境科学院地球圏科学専攻の氷河・氷床グループで杉山慎教授の指導のもと、修士課程を修了しました。当時の私にとって、“なぜ氷河を学ぶのか” という単純な問いに答えることは難しく、気がつけば 2 年が経過していました。杉山さんのおかげで学生として多くの経験を積み、スイスやグリーンランドの氷河観測にも参加できました。また、彼は海外の研究者との交流を奨励し、私たちに多くの機会を提供してくれました。10 年が経過した今、自分がどれほど恵まれた環境にいたかをますます感じています。また、世界で活躍する恩師の存在に圧倒されました。自分が不足しているものを真剣に考えるきっかけとなりました。

卒業後、私はアカデミックの世界から一時離れ、北海道の地滑り調査を専門とする企業に就職しました。しかし、就職後もなお、“なぜ氷河を学ぶのか” という問いは頭から離れませんでした。杉山さんから論文執筆の提案を受け、自分の研究成果を雑誌論文としてまとめることを決意しました。時間を見つけては執筆とデータ解析を行う過程が非常に楽しく、また自分の人生について考える機会となりました。その後、私は会社を辞職し、日本を離れ、青年海外協力隊として 2017 年から 2019 年まで 2 年間、ブータン王国に赴任しました。杉山さんも協力隊員だったこともあり、彼の影響を受けた私にとって、この決断に迷いはありませんでした。ブータンでの職務は、現地の研究者に地理情報システム (GIS) というソフトウェアを教えることでした。人生は不思議で、そこでもなお、“なぜ氷河を学ぶのか” という問いを考えることになりました。ブータンでは氷河が重要な水や電力資源である一方で、温暖化の影響で氷河が融解し、大洪水を引き起こす社会的な問題としても注目されています。修士課程で学んだ知識を活かし何か貢献できることはないかと考えた結果、GIS の指導を行う傍ら、自らブータンにおける氷河の研究を始めることを決意し、必死に取り組みました。最初は一人で進めていましたが、多くの同僚が氷河に興味を持ち始め、幸運にもその成果が新聞に掲載されることになりました。このことでブータンにおける氷河の重要性を彼らに少しでも広めるきっかけになったことに達成感を得ましたが、それを計画して実行に移すことのできない自分の力不足も同時に覚えることになりました。

“なぜ氷河を学ぶのか？” という問いについて、私は今も模索し続けています。現在、モンタナ大学で博士課程後期の学生として、2019 年から氷河に関する研究を行っています。10 年間振り返ってみると、杉山さん、環境科学院の教員の方々、先輩方、友人、そして家族からのサポートがあったからこそ、今も好きな研究に没頭できています。それは非常に幸運なことです。アメリカに来て 4 年が経過しましたが、素敵な仲間たちやメンターの方々との交流で得た経験は何事にも代えがたい私の財産です。モンタナ大学卒業後は、これまでに培った知識、経験、技術を社会に還元し、貢献したいと考えております。最後になりますが、もしやりたいことが少しでも心にあるならば今すぐ行動に移すことをお勧めします。



1. 二年間共に過ごしたブータンの同僚たち



2. ブータン国内で行われた研究集会にて



3. 米国モンタナ州の友人と車での旅行にて

発行：環境科学同窓会事務局

〒060-0810 札幌市北区北 10 条西 5 丁目
北海道大学 大学院地球環境科学研究院内

Fax: 011-706-4867

e-mail: home-coming@ees.hokudai.ac.jp

Issuer: Environmental Science Alumni Association Office

Graduate School of Environmental Science, Hokkaido
University

Kita 10 Nishi 5, Kita-ku, Sapporo 060-0810, Japan

Fax: 011-706-4867

E-mail: home-coming@ees.hokudai.ac.jp

バックナンバーは同窓会HPでご覧に頂けます。

www.ees.hokudai.ac.jp/alumni/main/liaison.html (日本語)

You can visit our back issues page here:

www.ees.hokudai.ac.jp/alumni/main/liaison-e.html (English)